

CCDS指定検査資格 ～講習及び試験制度の実施要項～

一般社団法人 重要生活機器連携セキュリティ協議会
株式会社マストトップ

1. CCDS指定検査資格講習 実施概要

CCDSサーティフィケーションプログラム

メーカーによる自主検査

専門業者による第三者検査

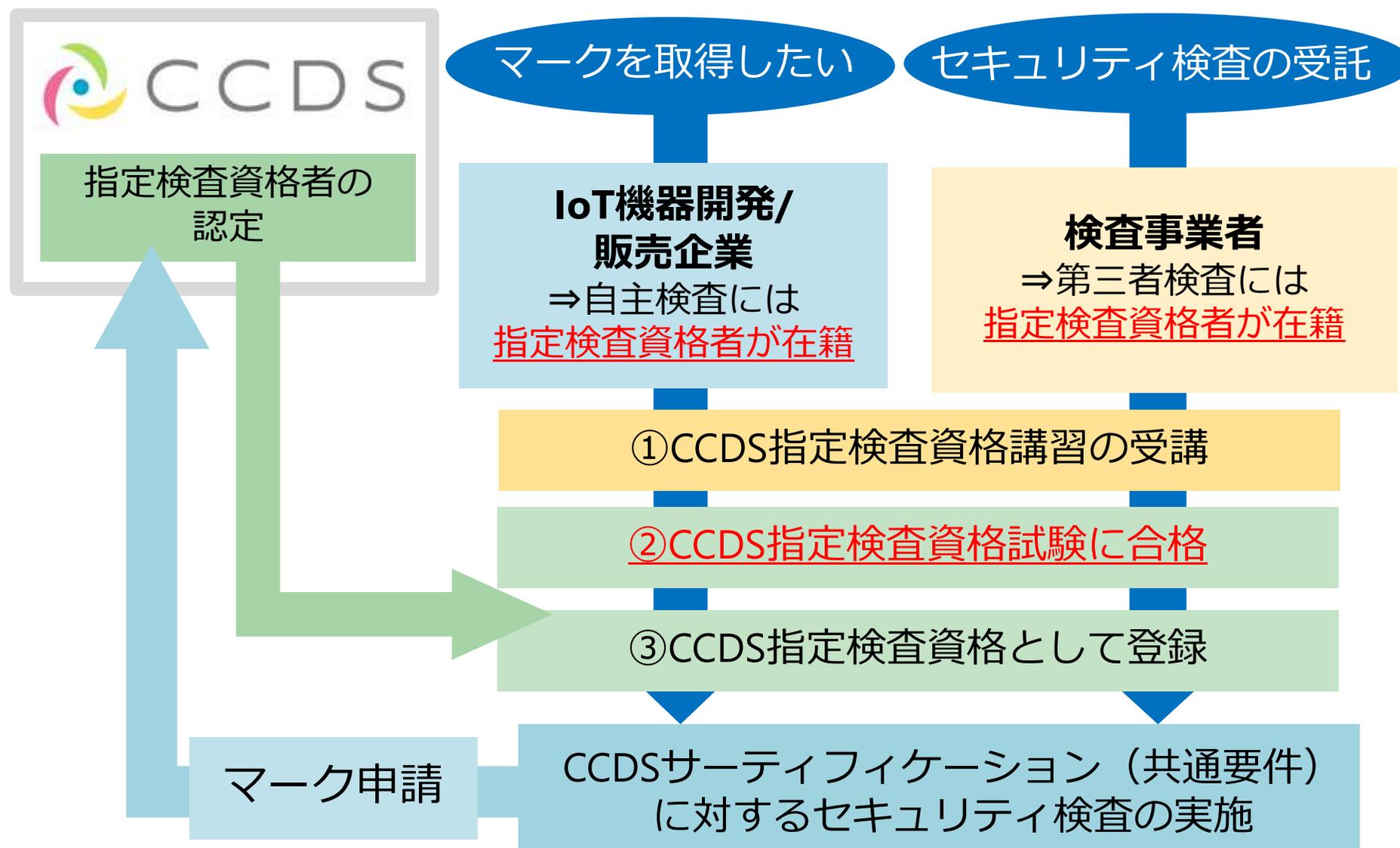
セキュリティ要件に対する適合検査が必要

■ 課題

- ・IoTセキュリティ人材の不足
- ・適合検査基準・手順の共通認識

CCDS人材育成プログラム
～指定検査資格講習～

CCDSとして、検査基準の共有とスキル修得を支援



※指定検査資格者の登録は、CCDS正会員・幹事会員メンバー限定

- ・ CCDS指定検査資格講習は、CCDSの認定を受けたセキュリティ人材育成プログラムであり、CCDSサーティフィケーションマークの取得申請に必要な検査手順・手法の知見や技術を習得できる内容です。
- ・ 検査資格に有効期限はありませんが、毎年のサーティフィケーションのセキュリティ要件の改定に伴い、別途追加講習の受講による更新が必要となります。

①CCDS指定検査資格講習 (効果測定で全教科70点以上の取得)

⇒ 検証に必要な知識の習得と確認
自動車免許で言えば... 学科試験

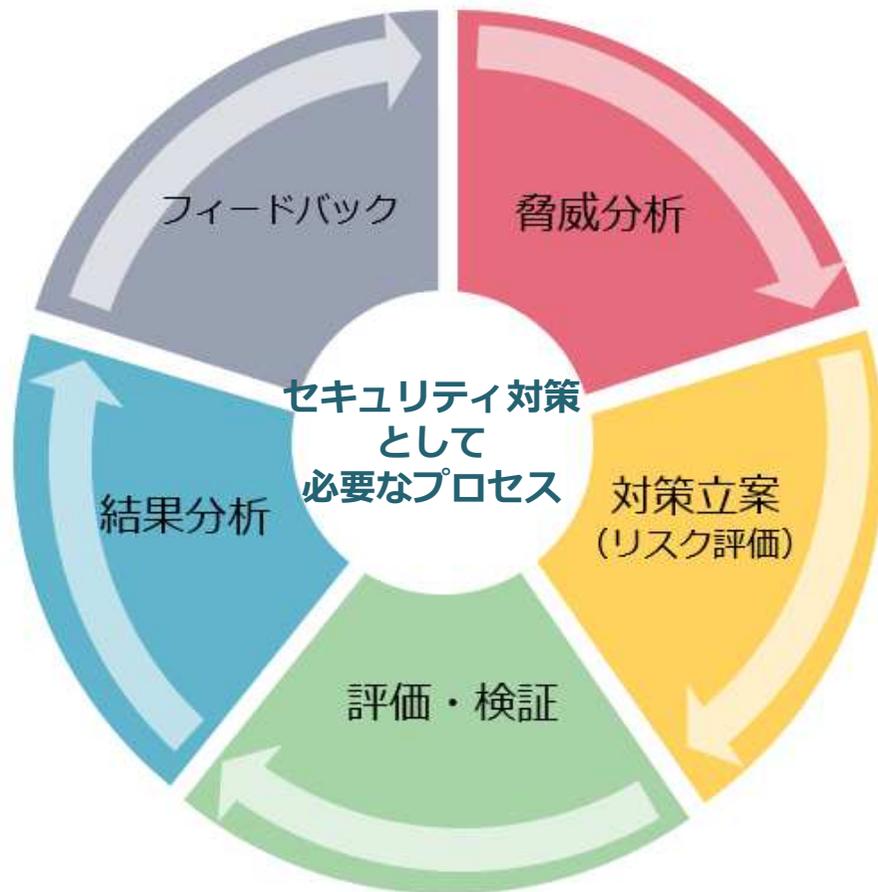
②CCDS指定検査資格試験

⇒ 実際に検査を実行することができるか
自動車免許で言えば... 路上試験

両方揃って
はじめて
資格登録と
なります

CCDS検証マークの付与申請に必要な一連のステップを脅威分析から、マーク付与申請書の作成まで、オールインワンで習得可能なプログラムとなっております。

- 1) 各講習プログラムは講義+実習をセットとした演習形式で構成しており、受講後も継続的に実践可能なプログラム内容となっております。
- 2) 製品・サービスの脅威分析や、対策立案、リスク評価等が包括的に含まれるプログラムであり、検証マーク取得に留まらず、対策すべきセキュリティ課題を総合的に検討することが可能です。
- 3) 共通要件の検証において推奨される検証ツール（OSS）を使用し、マーク付与に必要な検証手順や結果の分析方法を理解することが可能です。
- 4) Wi-Fi無線ルータや疑似スマートホーム環境を使用し、非常にリアルな環境で検証の実践を行うことが可能です。
- 5) 検証マークの取得時に保管が必要なエビデンスの記録や、マーク付与申請に必要な申請書類の作成を、実際のIoT機器による実習を通じて、体験的に学習することが可能です。



CCDS指定検査資格講習
必要なプロセスをオールインワンで学ぶことができる

脅威分析：リスクを発生させる要因の分析
⇒ どこがどのように危険なのか？

対策立案：リスクを回避、軽減させる対策の立案
⇒ 何をどう対策すれば良いのか？

評価・検証：対策効果のセキュリティ検査
⇒ 対策の結果として、実際に問題はないか？

結果分析：検査結果の分析
⇒ 問題があった場合解決策は？

- ・ 募集期間：別紙、募集要項参照
- ・ 講習開催予定：別紙、募集要項参照
- ・ 講習プログラム
 - 90分×12コマの講習プログラムを実施（詳細後述）
- ・ 開催場所：
 - CCDS/マストトップ セミナースペース
 - 〒141-0021
 - 東京都品川区上大崎2-12-1 野田ビル3F
- ・ 募集人数：10名（上限）、最小開催人数：6名
- ・ 受講費用：
 - ① 幹事・正会員割引価格
 - ・ 幹事会員：20万円／1名
 - ・ 正会員：25万円／1名
 - ・ 一般会員：30万円／1名（検査資格登録不可）
 - ② 2名セット割引価格
 - ・ 幹事会員：35万円／2名
 - ・ 正会員：45万円／2名

- ・脅威分析> 検査基礎> 検査実践と、段階を追って修得していくプログラム構成。
- ・ツールや実機を使った実習と、講義がワンセットとなった実践的な演習スタイル

1日目 脅威分析コース：90分×4講座

- ・ 共通要件の内容理解：講義
- ・ 脅威分析や対策立案、リスク分析の実践：講義 + 実習

2日目 検査基礎コース：90分×4講座

- ・ セキュリティ検証環境の環境構築：講義
- ・ セキュリティ検証ツールのオペレーション演習：講義 + 実習
- ・ 11要件に対するセキュリティ検査のポイント：講義

3日目 検査実践コース：90分×4講座

- ・ IoT機器を使用したセキュリティ検査実習（1）（2）：講義・実習
- ・ 疑似スマートホーム環境に対する演習（1）（2）：講義・実習

今後の講習実施スケジュール



- ・今後の講習計画は以下を予定。
- ※開催最小人数に応募が満たない場合、次回の開催予定に繰り越して実施する。
- ※各コースはセットでの受講が前提であり、個別受講は不可。

■ 2020年の講習実施スケジュール

実施計画	講習実施日	募集上限	開催最小人数
2020年1月	・脅威分析コース：1/17(金) ・検査基礎コース：1/24(金) ・検査実践コース：1/31(金)	10名	5名
2020年7月	・脅威分析コース：7/17(金) ・検査基礎コース：7/22(水) ・検査実践コース：7/31(金)	6名	2名
2020年11月	・脅威分析コース：11/6(金) ・検査基礎コース：11/13(金) ・検査実践コース：11/20(金)	10名	5名

CCDS講習プログラムメニュー①

: 1日目

: 2日目

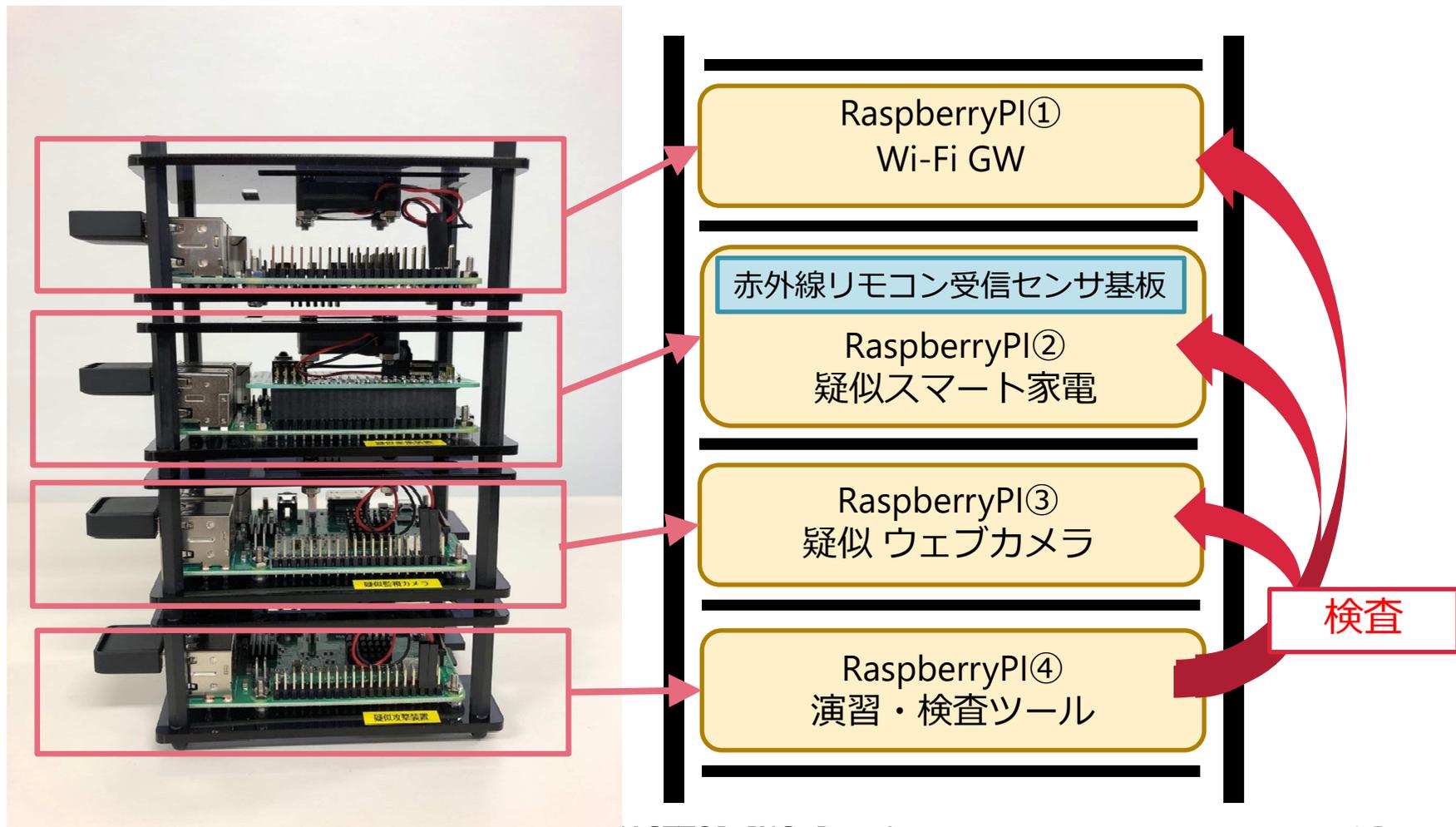
: 3日目

No.	講習テーマ	形式	時間
P1	【導入】 共通要件の内容説明と検査手法の解説と実践 ～共通要件11項目の内容と、検査手法や合格基準の理解	講義	90分
P2	【ステップ1】 システム構成図を用いた脅威分析の実践 ～脅威の抽出やCCDS-STRDEモデルによる分類方法の理解	講義・ 実習	90分
P3	【ステップ1】 想定脅威に対するセキュリティ対策の立案 ～セキュリティ対策の概要と対策フレームワークの活用	講義・ 実習	90分
P4	【ステップ2】 リスク評価手法の解説と実践 ～想定脅威に対するリスク評価とレベル定義	講義・ 実習	90分
P5	【ステップ3】 検査環境の構築 ～Linux環境によるセキュリティ検査ツールの環境構築方法	講義	90分
P6	【ステップ3】 OSS検証ツールによる共通要件の検査 ～共通要件の推奨ツール4種を対象に、使用手順や解析手法の理解	講義・ 実習	90分
P7	【ステップ3】 推奨ツールによる検証の実践 ～4つの推奨ツールを実際に使用し、検証手順を実践する	講義・ 実習	90分
P8	【演習準備】 セキュリティ検査の実施におけるポイント ～CCDS11要件に対するセキュリティ検査の実施ポイントと注意点 ～マーク申請プロセスと必要エビデンスの説明	講義	90分

No.	講習テーマ	形式	時間
P9	【実機演習】 IoT機器を使用した、共通要件内容にもとづく演習と実践（1） ～IoT機器を使用した実機検査演習	講義・ 実習	90分
P10	【実機演習】 IoT機器を使用した、共通要件内容にもとづく演習と実践（2） ～IoT機器を使用した実機検査演習、申請書の作成実習	講義・ 実習	90分
P11	【特別演習】 疑似スマートホーム環境に対する演習と実践（1） ～侵入・攻撃経路のプラン策定	講義・ 実習	90分
P12	【特別演習】 疑似スマートホーム環境に対する演習と実践（2） ～疑似スマートホーム環境の検証、アタック実習 ～講習の総括	講義・ 実習	90分

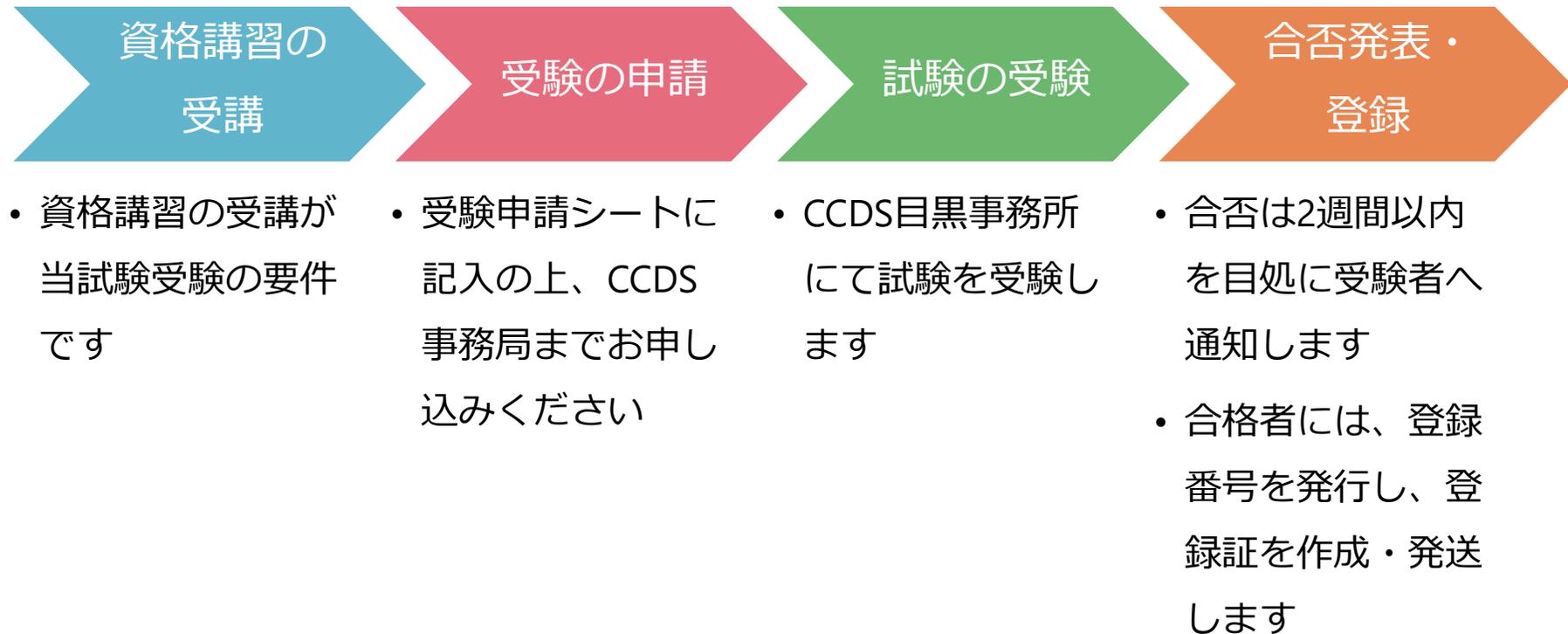
演習環境のご紹介

- ・ 演習/検査ツールと、検査対象となる疑似IoT機器を RaspberryPIにより、一体化した構成。
- ・ 各受講者に環境を貸与し、ツールを使った実習が可能。

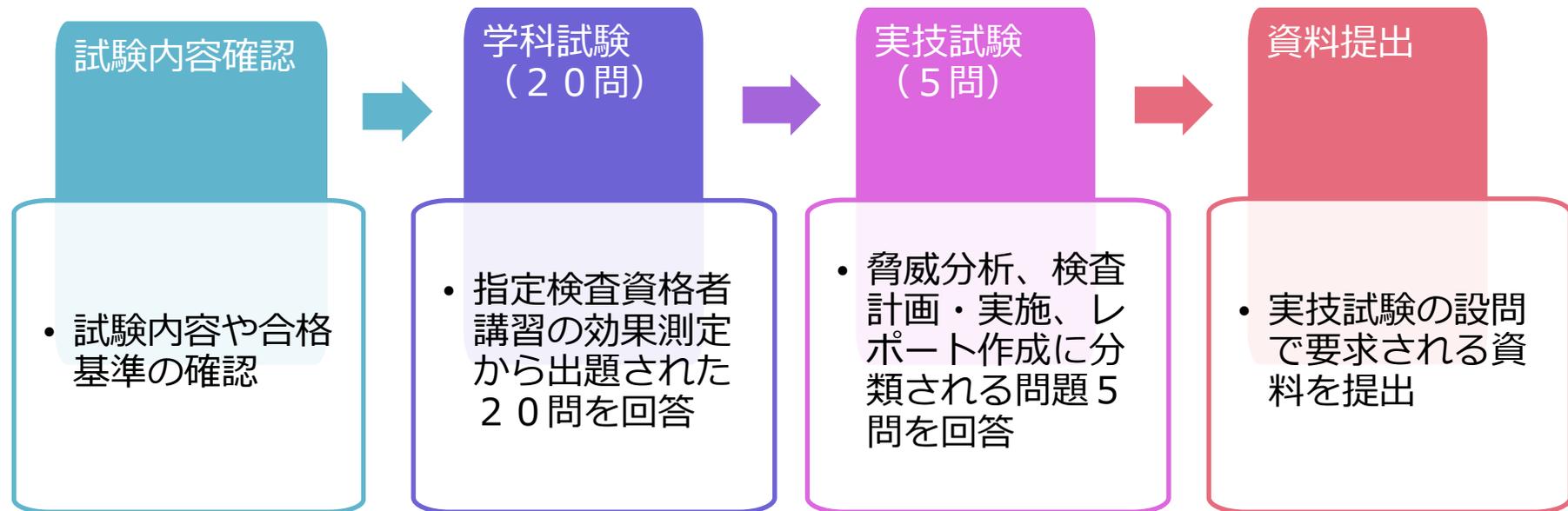


2. CCDS指定検査資格試験 実施概要

- CCDSサーティフィケーションプログラムにおける、IoT機器共通のセキュリティの11要件（以降、CCDS11要件）を検証できるスキルを持ち合わせているかどうかを確認する
- 試験方針
 - CCDS11要件を理解していること
 - CCDS11要件をチェックする手段を理解していること
 - 実際に脆弱性検証ツールの操作ができること
(nmap, aircrack-ng, THC-Hydra, OpenVAS, Wireshark等)
 - 脆弱性検証手法を理解していること
(脅威分析、検証内容策定、検証の実施、報告書作成)



- 実施日程：8月より順次開催中（事前予約性）
※CCDSから対応可能なスケジュールを告知しますので、受験者の方がご希望の日程を選択いただける形となります。
 - 試験時間：時間制限240分 ※完了した時点で退席可能です
 - 受験手数料：1回 5,000円
 - 試験会場：CCDS東京事務所
(東京都品川区上大崎2-12-1 野田ビル3F)
 - 申し込み方法：CCDS会員向けに別途アナウンスします
- ★詳細については後日アナウンス致します。
- ★過去に資格講習を受講された方へのフォローアップも予定しています。



- ※ 1. 受講生が使用する検証実施用機器として、検査資格講習で
使用した機器を提供します
- ※ 2. 試験時間は最大240分としていますが、学科試験・実技試験
の時間配分は自由です

- 試験概要

- 配布資料 1) 試験概要・設問
- 配布資料 2) 検証対象機器の取扱説明書（簡易版）

- 各種テンプレート

- 検査用様式 1) IoT分野共通セキュリティ要件検査ガイドライン_ヒアリングシート
※ヒアリング結果を記載済み
- 検査用様式 2) CCDS_共通セキュリティ要件検査手順書・結果表
- 試験用様式 1) 脅威分析表・検証計画
- 試験用様式 2) 脆弱性レポート

- 試験内容

- (学科試験) CCDS指定検査資格者講習の効果測定テストの中から20問を出題
- (実技試験) CCDS11要件に関する5問の問題を出題
 - 受験者は、ツールを用いた検証を通して回答を作成

- 合格基準

- **学科試験、実技試験共に9割以上正解すること**
- 各書類を提出すること
 - 実技試験の各設問で要求される回答資料
 - ※提出資料は設問ごとに異なります

- この試験に合格すると何ができるようになりますか？
 - ◆ 合格者はCCDS共通要件のマーク申請に伴う検査（メーカーによる自主検査、メーカーから委託を受けての第三者検査）およびマーク申請の代行ができるようになります

- 資格講習を受講してから要件等の変更があった場合はどうなりますか？
 - ◆ 前回受講時からの変更部分・差分については適宜フォローアップします
 - ◆ フォローアップの方法については以下を予定しています
 - 資格講習受講者専用のメーリングリスト、情報公開ページ
 - 資格講習受講者に向けたオンライン説明会の実施

- 資格講習の受講が受験の要件とありますが、受験資格の有効期限はありますか？
 - ◆ 当試験制度開始から1年間とし、それ以降は受講から1年間とする予定です。

- 受験時には資料を持ち込んだり参照してもいいでしょうか？
 - ◆ はい、資料の持ち込みやWeb検索は可能です。
ただし、他の人への相談等は許可していません。